

クリエイトひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイトひがしね

TEL 0237-43-1155 www.higashine.org

999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内

発行責任者 理事長 菊地 和博



共に未来につなぐ

「さくらんぼタントクルセンター」が誕生20周年を迎えました。思い起こせば平成15年、私は「子育てサロン」や「ファミリーサポートセンター」の担当者として、地域全体で子どもたちの成長を見守る社会の実現に向け、大切なお子さんを安心して預け預かるというファミサポの信頼の輪を広げる活動に携わっておりました。平成17年4月、新しい子育て支援の拠点施設が誕生する期待に胸を膨らませると同時に「この大切な場所を私たちは未来へどうつないでいくべきか」という使命感に、身の引き締まる思いがしました。私は「クリエイトひがしね」の職員として、この新たな船出に加わることになり、これまで以上に大きな責任を担って、利用会員と協力会員の皆様の「橋渡し」役に奔走しました。新しい環境でも皆様が安心して関わり合えるよう、信頼関係の構築に努めた日々は、私の人生にとってかけがえない財産です。

私たちクリエイトひがしねの強みは、多様な経験と専門性をもつスタッフが集い、そこから生まれる「化学反応」を力に変えてきたことにあります。固

NPO法人クリエイトひがしね
事務局長 村山 恵子

定観念にとらわれず、「こんなことができたらいいな」という夢を語り合い、それを実現するために知恵を絞る。その過程こそが、NPOとしての存在意義であり、地域に新しい価値を生み出す原動力となっています。理事をはじめ、常に前向きなエネルギーで満ちあふれた仲間たちと共に、数々の挑戦を重ねてこられたことを心から誇りに思います。

タントクルセンターの20年は、決して平坦な道のりではありませんでした。しかし、いつもそこには地域の方々の温かいまなざしがありました。私たちは、この感謝を未来へのエネルギーに変え、次の10年、20年も、この場所がすべての子どもたちと子育て世代にとって「心の拠り所」であり続けられるよう、全力を尽くしてまいります。そして、クリエイトひがしねもまた、地域になくはならない存在として、皆様と共に未来を創造していく団体であり続けたいと願っています。

これからも、タントクルセンターとクリエイトひがしねの活動に、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

クリエイティブひがしねの未来を展望する

設立20周年記念トークセッションより

当法人は、法人認証20周年、またこの4月にタントクルセンターの開館20周年を迎えました。この節目にあたり、初心に学びながら更なる進化を目指すことが大切です。

そこで、昨年11月13日に開催した「設立20周年記念トークセッション」を紙上に再現しました。20年の歴史を知る皆さんから、当時の思いを受け止め未来に活かしていきたいと思えます。

トークセッション出席者
コーディネーター 菊地 和博（理事長）
丹野 久江（名誉理事）
伊勢 博（副理事長）
軽部 権恋（プレイリーダー）



けやきホールの誕生

丹野 東根市が保健福祉総合センターを建設することになり、その市民検討委員を引き受けました。そのとき企画書を見せていただきましたが、残念ながら子どもたちをターゲットにした施設が含まれていませんでした。それで市長さんにお会いする機会をつくっていただき、「遊びセンターをつくって、東根市の未来をつくる子どもたちをたくましく育てたいのです」というような話をしました。だまって聞いてくださっていた市長さんの口から、「よし、分かった。作る！」という言葉がいただきました。私は無我夢中でその言葉を聞き、「ありがとうございます」と言ったのを今でも思い出すことができます。

「クリエイティブひがしね」の名称

伊勢 施設を運営する組織が必要だということで最初に丹野さんに声がかかり、次に組織を引っ張っていくにふさわしいひとということで菊地さんが選ばれたと聞いています。私は子育てに関する知識が全くなかったのですが、2つのNPOを立ち上げた経験があったものですから、そのノウハウを生かしたいということで参加させていただきました。

まずは設立準備会を設け、NPOをどうやってつくったらいいかという会議を重ねました。そして平成16年8月3日に設立総会を行い、NPOが誕生したわけです。名称については、総会でいろいろな案が出ましたが、新しい社会をつくっていく団体になるべきだということで、菊地理事長の提案で「創造する、新しいものを創っていく」を意味する『クリエイティブ』という名前を選んだのです。そういう経緯で「クリエイティブひがしね」という名称になったことを皆さんに知っていただきたいですね。

あそびあランドへ

丹野 けやきホールができて数年たったころ、ある職員から「もっと自然の中で遊ぶこともさせたいね」という意見が出ました。私も、屋内と屋外、両方あってこそ本当の遊びができるという思いがありましたので、外遊びができる所をつくってほしいという要望書を市長さんに出したところ「OK!」だったのです。場所は「よってけポポラ」の向かい側にいい所がありました。川が流れ、小鳥が歌い、魚たちが泳いでいるという環境です。「ここに『あそびあランド』をつくるんだ!」という思いが叶ったわけです。これで、屋内と屋外の両方に遊び場ができて、「ああ、これで満足! 満足!」という思いでした。

「ひがしねスタイル」とは

伊勢 私たちの子ども時代は、遊具を自分でつくったり、いろいろな物を代用したりして、工夫しながら遊んだわけです。また、草っぱらで野球をしたり、独楽を回したりして遊びました。そういう昔のことを思い出すと子どもたちも工夫しながら遊べるといいのかなと思いあまり遊具を置かない今のスタイルになったわけです。これを私たちは「ひがしねスタイル」とよんでいます。

未来への展望

軽部 法人の活動には、同じくらいの月齢の赤ちゃんたちが集まる「サロン」や、同じ年代の親が集まる「ひろば」があり、つながりやすくいいなあと思っています。我が子が砂まみれになっていたら「汚いから止めて!」と言ってしまいがちですが、他の子どもがやっている、なぜか笑って見守れるのです。そういう「見守り合える関係」「ナナメの関係性」の大切さをこれからも伝えていきたいなあと思っています。また、「あそびあランドだから、こんなに安心してのびのびと遊ばせられるんです。他の所では、周りに迷惑をかけないように気を使って過ごすことが多いんです」という言葉をよく聞きます。遊びの価値が、社会にもっともっと認識されれば、子どもの遊びを笑いながら見守ってくれる大人が増えるのではないのでしょうか。子育てをしやすい社会をつくるために、職員がもっともっと学びを深めていかなければならないと考えています。

伊勢・NPOには、地域の課題を解決するという大きな使命があります。そのためには、当法人の名前の通り“創造する”ことが大事になります。例えば、少子高齢化社会を迎えていますので、課題を抱えている子どもから高齢者まで、世代を超えて支援していく方法を考える必要があると思います。それから、NPOには社会に奉仕するという使命もあります。

私が入っているロータリークラブには、「職業奉仕」といって、自分の職業の能力を高めることが社会奉仕につながるという考え方があります。つまり職員の能力を高めていくことが、より良いサービス

を市民に提供することになり、社会奉仕につながります。そのためには、職員同士が夢を語り合いながらチャレンジし、職能を高めていく必要があると思っています。

丹野 私には東根市の未来をつくる担い手として「勢いづいたクリエイトひがしね」になってほしいという夢がありますが、第三者としては、クリエイトひがしねが頑張っているという裏付けがほしいなと思います。「裏付け」って何かというと、小さい頃、けやきホールで遊んでいた人が、もう親になっているわけで、その人たちの同窓会をしたらいいだろうなあと思うわけです。「5歳のときに、けやきホールでどンドン天井まで登ったことが、遊びそのものの実体験として心に刻まれています。だから私の子どもにもさせたいんです」というほうが、「我々職員は頑張っています」と言うより説得力があると思います。こういう同窓会物語を是非、未来への贈り物として出版していただければと思います。



特定非営利活動法人 クリエイトひがしね

創立20周年を記念して、かねて検討中のロゴマークが決まりましたのでご紹介いたします。

デザイン作成者
プラスユーデザイン
植松 友絵

クリエイトひがしね様の活動理念である

- 1、「未来」をクリエイトします ▶ 未来の担い手となる人材育成
 - 2、「地域」をクリエイトします ▶ 魅力ある地域の創造
 - 3、「輝き」をクリエイトします ▶ とともに育ちあう
- を3つの色で表現しています。

未来／橙色

地域／黄緑

輝き／黄色

タントクルセンター20周年 未来へつなぐハッピーフェスタ

地域に愛され育まれてきたタントクルセンターが20周年を迎え、5月18日（日）に「未来へつなぐハッピーフェスタ」を開催しました。

オープニングセレモニーには土田市長にもお越しいただき、幼いころからけやきホールに遊びに来てくれていた4人の子どもたちと一緒にハッピーバースデーのバルーンシャワーで盛大にスタート。「みんなのステージ」ではタントくんとのじゃんけん大会や子どもたちのダンス、ママさんバンドにドイツの遊びの紹介などで、会場がとても盛り上がりました。「こども商店街」では子ども達が考えたお店が並び、手話教室やバルーンアートなどのワークショップやタントクル秘密の探検隊も大人気でした。



けやきホールでは「みんなで体を動かそう」や「おりがみ教室」「イリママのおはなしばこ」など親子で楽しめる企画が満載。特にタントくんのスタンプラリーでは、4つにわかれたスタンプを集めてもらったクーポン券を子どもたちが握りしめ、嬉しそうに買い物をする姿がとても印象的でした。

当日は3,369人の来館者でにぎわいたくさんの笑顔に出会えた1日となりました。

これからもタントクルセンターがより多くの方々に愛されるように職員一同と努めてまいります。

（渡辺友美）



編集後記

本号は概ね年2回発行、わずか4頁の小さな機関紙ですが、タントクルセンターの節目に合わせるかのように50号となりました。年2回×20年＝50号とならないのは「概ね」だからです。

「タントクル」と「あそびあ」、ふたつの施設を支えてきたスタッフのみなさん。20年の間に交代はあったものの、一人ひとりと接して感じるはその多様性です。村山事務局長は「多様な専門性をもったスタッフから生れる化学反応」と表現していますが、オーケストラに例えれば、形、音域、音色の違う弦楽器、管楽器、打楽器が一体となって感動を生み出します。多様化する社会と子どもと共に、響き合いながら常に新しい曲に挑戦していきたいものです。（M）